

卒業論文

子どもの貧困の現状とその支援の実態

ー子ども食堂等のボランティア活動は貧困にどう向き合っているのかー

早稲田大学政治経済学部政治学科
映像ジャーナリズム・高橋恭子ゼミナール
4年廣田果那音

概要

日本における「子どもの貧困」は6人に1人。国民生活基盤調査によって発表されている数字だ。これを「少ない」と感じる人はいないだろう。

しかし、この現状が社会課題として取り上げられる機会は十分にはない。まして、日本の貧困支援がどのような制度のもとで行われており、支援団体がどのような活動をしているのかなど、ほとんど知られていないと言っても過言ではない。

そこで本論文では、子どもの貧困の現状および貧困支援の実態に迫る。そして、その実態を考察することによって導かれる結論を、今後の支援のあるべき姿を示す一助とすべく、ルポルタージュの形式(以下ルポ)でまとめる。

第1章では、はじめに本ルポにおける「子どもの貧困」の定義を明確化し、その現状と課題を洗い出す。第2章では、近頃子どもの貧困支援の一つとして急増している「子ども食堂」に焦点を当てている。子ども食堂とは、貧困の子どもの主な対象として夕食等を提供するボランティア活動であると筆者は認識していたが、実態はどのようなものであるのか、その詳細を明らかにする。続く第3章では、実際に子ども食堂ならびに学習支援を行う子ども無料塾に取材を行い、現場の声を中心に、現在の貧困支援のあり方について論じていく。そして、そこから浮かび上がった疑問や課題を第4章で取り上げる。子どもの貧困問題に明るい専門家の意見を交えつつ、貧困支援が今後どのように変わっていくべきかを結論づけ、最終章へと運ぶ流れである。